

学年							小笠原村立小笠原中学校 美術科 2年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	②	3		
月	単元名	一版多色刷木版画「私の好きな景色」(12)				系単元性の	1年時に遠近法を学んでいるので、その理論を使って作品制作をする。技能的には、1年時に学んだ絵の具の使い方や色彩理論をもとに制作していく。			
4 ・ 5 ・ 6	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	○一版多色刷木版画「私の好きな景色」【A表現】						つまずきやすいポイント	①単色で終わってしまい、色に深みが出ない。 ②長期課題なので、なかなか進まず、最後に焦って仕上げることもある。 ③彫刻刀の線が単調になる。		
	【ねらい】 遠近法を生かして奥行きのある風景を描く。色の重なり的美しさを生かし、全体のバランスを考えた、まとまりのある作品を制作する。 【内容】 ・版画のしくみについて知る。(1) ・様々な遠近法から選択し、遠近を意識したアイデアスケッチをする。(2) ・アイデアスケッチを板にうつす。(1) ・板を彫刻刀で彫る。(3) ・何度も刷り重ねる。(5)							工夫・手立て	①補色で地塗りさせることで、色に深みを出させる。 ②スモールステップを準備し、こまめに採点するようにし、なるべく進捗差を出さないようにする。 ③彫刻刀は切出刀を使わせるようにし、線の太さなども意識させるようにする。切出刀を使うのが難しい場合は三角刀等を使わせる。	
	評価規準									
知識・技能	遠近法に関する知識を理解している。版画に関する知識を理解している。(知) 奥行きを表現するための構図や、表現方法的確であり、正確に形をとらせることができる。(技)				思考・表・現判断	色の重なり的美しさを意識して色の選択をして、色彩表現できている。(発表) 多くの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図や工夫について考えるなどして、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めている。(発鑑)		主体的に学習に取り組む態度	遠近法における自分なりの表現意図をもって、丁寧に作品を制作している。(態表) 美術の創造活動の喜びを味わい、目ざした作者の表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)	
	定期考査・行動観察・作品					定期考査・行動観察・作品			定期考査・行動観察・作品・自己評価	
月	単元名	鑑賞レポート(0.5)				系単元性の	1年時に作成したレポート「気になる作家を調べてみよう」の発展である。人物を取り上げるよりも、作品を取り上げる方が、自分の好みや考えを反映することができる。作品ひとつをじっくり調べ、観察し、知ること、制作意欲につなげていく。			
7	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	○夏休みの宿題レポート「気になる作品を調べてみよう」B鑑賞						つまずきやすいポイント	①調べたこと、感じたことや考えたことが整理できない。		
	【ねらい】 美術文化や文化遺産等に対する関心を高め、美術を愛好し、心豊かな生活を創造していこうとする。感性や創造力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり、理解や見方を深めたりする。 【内容】 ・見本を見て、レポートの内容を理解する。 ①調べたこと ②スケッチ ③感じたことや考えたこと							工夫・手立て	①調べたこと、感じたことや考えてこと、がきちんと棲み分けできるように、ワークシートに明確に表示する。	
	評価規準									
知識・技能	丁寧に美しく描写ことができている。(技)				思考・表・現判断	考えたことや感じたことから、作品に対して自分なりの考えをもち、レポートにまとめる。(発鑑)		主体的に学習に取り組む態度	美術作品に関心をもち、その作品等について調べたものをまとめ、考えを深める。(態鑑)	
	ワークシート					ワークシート			ワークシート	

学年							小笠原村立小笠原中学校 美術科 2年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	②	3		
月	単元名	ポスター制作(0.5)				系単元性の	1年時にポスター制作を行った後に、色彩理論を学んでいる。その理論を用いて、より発展的な制作を行う。			
7	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	○夏休みの宿題「ポスター制作」A表現					つまずきやすいポイント	①ポスターなのに、絵画表現になってしまう。			
	【ねらい】 視覚伝達を理解し、テーマの伝達のための試行錯誤をする。感性や想像力を働かせて、ポスターデザインをし、美しい作品を制作する。 【内容】 ・「視覚伝達」について学ぶ。 ・作業の手順について学ぶ。						①自分の描きたいものを描くのではなく、「伝える」ためのものであることを指導する。			
	評価規準									
知識・技能	テーマを伝えるための図柄を、わかりやすく美しく表現している。(技)				思考・表現・判断	テーマを伝えるために、発想豊かにデザインし、的確な色を選択して着色することができている。(発表)		主体的に学習に取り組む態度	テーマを伝えるためのアイデアを深め、丁寧に制作しようとしている。(態表)	
	作品					作品			作品	
月	単元名	日本の伝統工芸(1)				系単元性の	日本の工芸を学ぶことで、季節感をどのように取り入れているかを学び、2学期に制作する「季節感を表現した和菓子の制作」につなげる。			
9	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	○「日本の伝統工芸」B鑑賞					つまずきやすいポイント	①作業前に行う授業なので、定期考査の時には忘れてしまっている。			
	【ねらい】 日本の伝統工芸について、その歴史や特徴、制作工程、現代の作家について学び、日本のよさを知る。「用の美」を学び、生活の中の工芸美術に気付き、自らの生活を彩り豊かに送ろうとする気持ちをもつ。 【内容】 ・工芸品について ・日本の伝統工芸の種類、制作方法 ・参考作品 ・季節感の取り入れ方						①定期考査前に補習を行う。以前の内容を思い出すことと同時に、作業後に同じ話を聞くことで理解が深まったり定着したりする。			
	評価規準									
知識・技能	生活を豊かにし、技巧に支えられた伝統工芸について理解する。「用と美」についての考え方を理解する。(知)				思考・表現・判断	さまざまな工芸の目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、工芸の特徴や、作者の表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。(発鑑)		主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく生活の中で使われる工芸の特徴やよさを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)	
	ワークシート・定期考査					定期考査			定期考査	

学年							小学校			中学校			小笠原村立小笠原中学校 美術科 2年 年間指導計画																						
1	2	3	4	5	6	1	2	3																											
9	10	11	単元名 季節感を表現した和菓子の制作(10)			系統性の	日本の伝統工芸を学ぶことで、生活の中の美に注目し、実際にそれを制作することで体感することができる。			学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫																			
○「季節感を表現した和菓子の制作」A表現									【ねらい】 日本の美意識について学び、日本のよさを知る。「用の美」を学び、生活の中の工芸美術に気付く、自らの生活を彩り豊かに送ろうとする気持ちをもつ。						【内容】 ・アイデアスケッチをする。(2) ・樹脂粘土で和菓子を制作する。(5) ・制作した和菓子を彩るPOPを制作する。(3)						つまずきやすいポイント			①好きな形をつくったり、自己の感覚だけで完結してしまうことがある。 ②イメージはあっても制作方法がわからない。											
															工夫・手立て			①スライドでの画像提示を多く行う。 ・和菓子の参考作品 ・季節感が出ている写真と、そのポイントの抽出 ・季節の植物や風景 ②実際に制作している動画を見せて、意欲を高める。																	
評価規準																																			
知識・技能			日本の伝統的な材料や生活に息づく美術の働きについて理解をすることができている。(知) 表現したい内容にあった材料、用具を選び、使い方を工夫して表現することができている。(技)			思考・表現・判断			生活に息づく日本の伝統的な形や色、材料から発想を広げ、和菓子の企画の構想が練れている。(発表) 季節感をあらわした作品の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、季節感がどのように作品に取り入れられているかを考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。(発鑑)			主体的に学習に取り組む態度			工芸品に生かされている自然の美しさや季節の彩りなど、造形的な工夫に関心をもつことができている。(態表) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に季節感が作品にどのように取り入れられているかを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)																				
定期考査・行動観察・作品			定期考査・行動観察・作品			定期考査・行動観察・作品			定期考査・行動観察・作品			定期考査・行動観察・作品・自己評価																							
12	単元名 鑑賞「最後の晩餐」			系統性の	1年次に「アルノルフィニ夫妻の肖像」の鑑賞で絵画の見方について学んだ。それをもとに、今回は時代や作者、絵画の歴史などについて発展的に触れ、自分自身で作品を読み取って鑑賞することに学習を深める。																														
学習活動									「わかる」から「できる」授業への工夫																										
○鑑賞「最後の晩餐」B鑑賞(2)									【ねらい】 美術文化や文化遺産等に対する関心を高め、美術を愛好し、心豊かな生活を創造していこうとする。感性や創造力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、創造力の豊かさなどを感じ取り、味わったり、理解や見方を深めたりする。									【内容】 ・作品についての基本情報を知る。 ・作者がどんな人物かを知る。 ・絵画の歴史的な背景を知る。 ・画面構成について知る。 ・描かれた人物のセリフを考えて発表する。 ・裏切り者ユダが誰かを根拠をもって説明する。									つまずきやすいポイント			①カタカナが多く、最初の段階で飽きてしまう生徒がいる。					
									工夫・手立て			①活動を入れながら、少しずつスライドに集中できるように、授業構成をする。																							
評価規準																																			
知識・技能			「最後の晩餐」の歴史的背景や作者について理解し、作品の制作意図等について理解する。(知)			思考・表現・判断			「最後の晩餐」における作者の意図を読み取り、自分なりの推論を立てる。(発鑑)			主体的に学習に取り組む態度			「最後の晩餐」について自ら考えを深め、自分なりの考え方をもつことができる。(態鑑)																				
定期考査			定期考査			ワークシート			ワークシート			ワークシート																							

学年							小笠原村立小笠原中学校 美術科 2年 年間指導計画			
小学校				中学校						
1	2	3	4	5	6	1				②
月	単元名	色と形のしりとり(9)				系統性の	1年次に学んだ色彩についての基礎的な知識と技能を使い、それを発展的に利用して制作する。			
1 ・ 2 ・ 3	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<p>「色と形のしりとり」A表現</p> <p>【ねらい】 形と色に着目し、それを変化させる構想を練り、作品制作をする。仲間と話し合いながら、色や形などを工夫して制作する。</p> <p>【内容】 ・色彩について復習する。(1) ・班で話し合い、変化させるモチーフを人数分決める。(2) ・自分の分担となったモチーフから、次のモチーフまでの変化の過程を色と形に着目して考え、モチーフと変化の過程を含めて3枚制作する。 ・下描きをする。(2) ・着色をする。(4)</p>					つますきやすいポイント	①明度・彩度・色相の変化が理解できない。			
						工夫・手立て	①復習として最初に色の三要素に関して説明する。個々に机間指導をし、色の変化について相談する。班活動を通して、友人と話し合うことで理解を進める。			
評価規準										
知識・技能	色や形の性質や効果や造形的な特徴をもとに、色と形を変化させながら表現していくことを理解している。(知) 材料や用具の特性を活かし、意図に応じて自分の表現方法を追及して造形的に表現している。(技)				思考・表現・判断	実際の生物や身の回りの物から発想を広げ、単純化や省略、強調などを利用して、造形的な構成を工夫して、心豊かに表現している。(発表)			主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、友人と話し合いながら、主体的に何を伝えるかを考えて、見る人にわかりやすいデザインをする表現活動に取り組もうとしている。(態表)
	定期考査・行動観察・作品					定期考査・行動観察・作品				定期考査・行動観察・作品・自己評価